

第2回タウンミーティングで出された意見・課題の整理結果

発言者	現状、課題、解決策、意見
A グループ： 生きものの好き（魚類・両生類・爬虫類）	<課題> - 河川改修やダムによる産卵・生息場所の減少、魚の数の減少 - 外来種や放流個体（メダカやドジョウ）による遺伝子汚染 - 川と人との関わりの希薄化 <解決策> - 工事関係者の理解を深め、適切な環境評価（データ蓄積）を行う「適正な開発」が必要 - 川遊びイベントなどを通じて、大人が「川は怖い、ルールを守れば楽しい」と教える機会を増やすこと - 漁協との協力体制を確立すること
B グループ： 生きものの好き（その他の生物：昆虫、哺乳類、鳥類、植物などを中心）	<現状> - ホタルやカブトムシ、クワガタ、アケビなどの豊かな生物がいる - シカやクマとの共存を図り、ホタルを守りたい <課題> - 樹液の出る木が減るなど森林の手入れが不足している - 子供が外で遊べる場所が減っている <解決策> 「受け継ぐ、つなぐ、伝える」をキーワードに、若い人に知識や魅力を伝える仕組みを作ること - 地域任せにせず市がしっかりと教育システムを整備すること
C グループ： 活動・アクティビティ（遊びや山活動）	<現状・課題> - 朝来は生き物が多く自然豊かだが、令和の時代は規制も多く、遊べる場所や活動が少ない <解決策> - 自然体験活動を増やすための「指導者（認定博士制度など）」の育成 - 市内に博物館や水族館のような活動の拠点（ホットスポット）を作ることで、市民の意識向上や地域の活性化、次世代への継承に繋げていく
D グループ： 食・暮らし	<現状・魅力> - 水や空気がきれいで食材が新鮮である - フキノトウ、イタドリ、秋のクリなど季節ごとの豊かな「川の幸・山の幸」がある - 生産者の声が聞けること - 光害が少なく、夜空が美しいこと <課題> - 山の神様のお祭りなどの伝統的な暮らしや知恵が薄れていること - カワウが増えて魚が減っていること <解決策> 1人1人が小さな実践（味噌作りなど）をすること - 外部へ魅力を伝えるために IT 人材やプロモーション人材と地域が繋がる仕組みをつくること 具体案）・地域住民が改めて価値を認識できるサイクルの構築 - 朝来市全体の「季節の暦」や生き物マップを、地域ごとのサイズで作って繋ぐ
E：農業・林業	<課題> 農業者が減っており、農地の耕作放棄地が目立つ

発言者	現状、課題、解決策、意見
	・ 農業で儲かる以外の「幸福度」を見つけて盛り上げていくことも大事 <解決策> ・ 若い人が参入できる仕組みの構築 ・ 新規就農者が農地を上手に使っている事例の紹介 ・ 森林環境譲与税の活用（市への要望） ・ 生業として農業や林業に関わる以外に、兼業農家や家庭菜園、自分の家の裏山の整備といった形もあるので、「個々の小さな関わり」といった貨幣経済以外での携わり方を大切にすること。それによって、一人ひとりが幸せや幸福感を感じ、地域社会の豊かさに繋がっていく
F グループ： 景色・景観	<現状> ・ 棚田の風景、竹田城跡の雲海、星空、地元の山や川の景色などが素晴らしい <課題> ・ 若者が景観への関心が薄いこと ・ 観光地化（駐車場整備など）やコンクリート（護岸）による自然破壊により良好な景観が喪失したこと <解決策> ・ 写真展の開催やスマホでの撮影を通じて、いい景色を知ってもらう ・ 人を巻き込み、誘われたら参加したくなるようなリーダーの育成（波多野さんのような人）
その他（全体の意見出し）	<意見> ・ 震災の記憶と同じで、生物多様性も「語り部」が必要。正しい知識を持って次世代に伝えることが大切。 ・ 菌類など土の中の生き物にも注目すべき。山や大地が呼吸できる環境を整える活動を朝来でも広めたい。 ・ 移住者の視点で、何気ない日常の景色をテーマにした写真展を企画している。地域の人と移住者が一緒に魅力を再発見したい。 ・ ここに集まった多ジャンルの「好きなもの」を持つ人たちが繋がること自体に価値がある。 <スローガン設定に向けたキーワードの整理> ➤ 「繋がり（人と人、人と自然）」 ➤ 「次世代・後生に繋ぐ（バトン）」 ➤ 「体験・楽しむ」（知るだけでなく、五感で味わう） ➤ 「幸せの循環」（自然の恵みを享受し、守ることで幸せになる） ➤ 「基礎データの重要性」（朝来に何があるかのデータを蓄積する）

以上